

## 山本 たかお (やまもと・たかお) 先生

株式会社テレビ朝日

編成制作局エグゼクティブプロデューサー

1959年京都府生まれ、1977年六甲高等学校卒、

1982年一橋大学法学部卒、テレビ朝日入社。制作局配属。

数々の音楽番組のAD、「グラミー賞 SP」のDの後、

1986年「ミュージックステーション」を立ち上げ、以来27年担当。

D、チーフD、プロデューサー兼演出を経て現在チーフプロデューサーに。

その他にも「パパパパ PUFFY」(1997年)「8時だ J」(1998年)

「裸の少年」「マシュー'S BEST HIT TV」(2001年)のプロデューサーを担当、

「堂本剛の正直しんどい」(2002年)「いいはなシーサー」(2007年)なども

企画する。2010年より「タモリ倶楽部」も担当する。2011年9月「テレビ朝日

ドリームフェスティバル」を企画、B'z、ラルク・アン・シエル、GLAY、東京事変、

いきものがかりなどを集めたライブイベントを日本武道館で3日間開催、

大成功させ、2012年はドリカム、aiko、ケツメイシ、Superfly、ポルノグラフィティ、

サカナクション、凛として時雨などを集め開催、そして今年には EXILE × GLAY の

ジョイントライブの他、浜崎あゆみ、ONE OK ROCK、いきものがかり、堂本剛などを集め過去最大のフェスとなった。

また、2013年11月30日よりテレビ朝日のライブハウス EX-THEATER ROPPONGI をオープン、そのオープニングシリーズを担当。B'z、奥田民生、

GLAY、9mm、DragonAsh、ポルノグラフィティをプロデュースする。現在 テレビ朝日 編成制作局エグゼクティブプロデューサー兼事業局イベント事業部。

「ミュージックステーション」チーフプロデューサー、「タモリ倶楽部」プロデューサー。



## 《講義概要》

株式会社テレビ朝日編成制作局エグゼクティブプロデューサー兼事業局イベント事業部、「ミュージックステーション」チーフプロデューサー、「タモリ倶楽部」プロデューサーとして、数々のテレビ番組の企画・運営に携わる山本たかお氏が、「ライブ時代のテレビ音楽番組の存在」をテーマに講義を行った。

講義ではまず、ミュージックステーションの裏側に密着した貴重な映像を上映し、大勢のスタッフの入念な準備によって出来上がる生放送番組制作の実態を紹介した。生放送番組のこだわりやビジネス戦略、カット割り、スケジュール、ブッキングのシステム等について詳しく説明し、学生に音楽番組制作の奥の深さやその魅力を伝えた。

また、ネット時代の到来による視聴率の低下やパッケージ売上の不振が危惧される中、ライブ事業が好調である音楽産業の現状を示し、テレビ局もフェスの開催やライブハウスの設立といった独自のノウハウを活かしたライブ事業を展開していることを紹介。番組とその他の事業を連動させた新たなビジネス展開の重要性を示すとともに、テレビ音楽番組や音楽業界の活性化のためには、アーティストの育成が最も大切であると言及した。ネット時代、そしてライブ時代における音楽産業のあり方と今後の可能性について学生に考えるヒントを与え、さらなる展開への軌道を見据える講義となった。

## 《受講生の感想》

●CD が売れず、ライブの売上がどんどん伸びているという現状がある中で、MUSIC STATION という生放送の音楽番組がどのような役割を担っているかということを考えさせられるお話だった。M ステはアーティストを育てることを大事にしているというお話は大変印象に残った。また、番組が生放送であるからできるプロモーション方法があると強く感じた。パッケージにすぎたのではなく、時代に沿った方法で、これからもライブベースでアーティストを育てるという M ステ制作者の気持ちがよく分かり、響いてきた。

立命館大学・映像学部・2 回生

●音楽番組の制作の裏側を知るととても良い機会でした。受動的であることでの強みや弱みを把握することで、これからの時代、ネットとの差を生み出せると感じることができました。ライブでの親近感とテレビというメディアの強みを積極的に活かしていくことのできる環境を作り、アーティストを育て、ソフトを作るという使命を持って働かれている先生に対してとても感動しました。

立命館大学・法学部・6 回生

●現在ライブ時代と言われているがその生音を伝えるということが重要であるのと、アーティストの集中力、気合の入れ方が違うということが大切なことなのだという事である。また、TV 局や CD 会社も別にライブ事業を拡大していることは、ライブ産業は見逃せないことだということが理解できた。今後もライブ時代の音楽業界の動向を注目してみたいと思う。

立命館大学・映像学部・2 回生

●音楽 CD が売上を下げ、若者を中心にテレビ離れが進む中、「ミュージックステーション」の担っている役割、ポジションは重要であると同時にユニークなものだと思いました。「生」での演奏にこだわる M ステの意義は、このような音楽業界の状況においてこそ際立っているのだと思います。アーティストの育成という面でも M ステが担う役割は大きいようでした。番組制作の裏側を見て、大変忙しそうでしたが、スタッフ一人一人が一丸となって情熱を注いでいる姿に感動しました。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●ミュージックステーションの生放送へのこだわり、“生放送にすることによってアーティストのモチベーションを上げ、パフォーマンスのレベルが上がっていく”これが視聴者にも肌で感じられていると思った。だからこそ、CD が売れなくなっている今、ライブ産業がかなり盛り上がっていると思った。今、音楽業界で重要になっているアーティストの質というのが、テレビ番組やライブによって高められていく鍵になると思った。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●ミュージックステーションがどうやって作られているかという VTR を見てカメラの裏の世界を始めて知りました。番組自体は 1 時間だけですが、準備にはものすごい時間がかかり、とても細かいところまで綿密にミーティングをして詰めて構成されていることが分かりました。カメラやライトなどの世界にとっても興味を持ちました。また、歌手と番組間での信頼関係が視聴者にも伝わり、視聴率の向上に繋がることが分かりました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

